

国際地学オリンピックへの道

The road to International Earth Science Olympiad

久田 健一郎 [1]

Ken-ichiro Hisada[1]

[1] 筑波大・生命環境

[1] Grad. School Life and Envir., Univ. Tsukuba

国際地学オリンピックは International Geoscience Education Organization (IGEO) の主要活動として創設された高校生のための地学コンペティションである。IGEO は 2000 年 1 月に設立され、1) 地学教育の奨励、2) 地学教育の質を高めるための努力、3) 一般人、特に若い人々に対する地学教育への認識高揚、などの目標を掲げている。IGEO には、アメリカ合衆国、カナダ、オーストラリア、ドイツ、イギリス、韓国、日本など世界 22 カ国が加盟しており、COGE(Commission on Geoscience Education, Training and Technology Transfer) と連携して国際的な活動を繰り広げている。この COGE は、半世紀近い歴史を有する国際地質科学連合 (IUGS) の下部組織である。また COGE は 2004 年に新しく創立した組織で、先進国や発展途上国の様々な国々の地球科学教育を開発・推進・支援することを目標としている。とくに国際地学オリンピック開催には積極的で、COGE の Commission Action Plan 2005-2006 には、すでに地学オリンピックへの参加を呼びかける項目が含まれている。

COGE の呼びかけ 1 年前に、IGEO の当時副会長であった Chan-Jong Kim 氏が、国際地学オリンピック (IESO) の実現に向けて活動を開始したとされている。まず IESO のためのシラバス作成委員会や第 1 回国際地学オリンピック組織委員会が結成された。つづいて「国際地学オリンピック; 目標と目的とシラバス」や「国際地学オリンピック規則」が策定され、開催準備が整った。そして 2007 年 10 月、念願の第 1 回国際地学オリンピックが韓国において開催されたのである。

このような IGEO の活動に呼応して、日本地球惑星科学連合では 2007 年 2 月に国際地学オリンピック小委員会を立ち上げ、国際地学オリンピックへの日本参加の是非を検討してきた。とくに第 1 回国際地学オリンピック韓国大会に視察団 (オブザーバー資格で 7 名) を派遣し、国際地学オリンピックの今後の展望や高校生参加の教育的意義について検討するために、参加高校生に直接インタビューするなど資料収集を行った。その結果、国際地学オリンピックに高校生を派遣することは、将来のわが国における地球惑星科学者を育成することはもちろんのこと、日本人の地球科学・惑星科学・宇宙科学関連の科学リテラシー向上のためにも大きな意義があることを確信した。そして 2007 年 11 月に、第 2 回フィリピン大会に日本選手団を派遣することを国際地学オリンピック小委員会で決定した。これを受けて日本地球惑星科学連合は、国際地学オリンピックを組織的に充実した活動とするために、国際地学オリンピック小委員会を発展的に解散させ、新たに 2008 年 3 月に国際地学オリンピック日本委員会を設立したところである。

国際地学オリンピック日本委員会は、このように毎年開催される国際地学オリンピックに高校生を派遣する事業を通して、21 世紀を担う若い高校生に世界規模の広い視野を育成するとともに、地球環境問題や自然災害への対応、そして海洋や宇宙の謎の解明に果敢にチャレンジする科学的な姿勢を培うことを目的としている。